

Q2 参考になったことや今後に活かしたいと感じたこと

| |
|---|
| 外国の人とたくさん話す |
| 将来、子供(外国人の)のための教育を手助けするボランティアをやってみたいと思いました。 |
| 村上さんの話の奨学金について、どんな思いで国籍を変えるのか。日本人として生まれて、日本で暮らす私たちには、体験することは、あまりないだろうが、重い内容だと感じた。しかし、人ごとになってしまう。 |
| 外国の子が日本に来て夢を持ってなくなっている。また、自分が好きなことや得意なことを見つけるきっかけに出会えない子がたくさんいる。それを知ったので、もし、自分にできることがあったら手伝いたいと思った。 |
| 学校というある意味の日本人コミュニティ外の現状や身近に起きている問題の発見が出来た |
| ブラジル人の方の実際の経験や、自分だけの思いなどを聞いて、初めて日本の外国人支援の現状を知りました。でも、強く生きている方の強く生きるための方法などを聞いて、自分も頑張らなきゃと本当に心から思いました。 |
| 私は地元である東浦町で多文化共生の活動を行っていきたく強く思いました。東浦町にもブラジル人はたくさんいます。そのような方の日本語やその他の学習のサポートを行っていきたく考えています。高校生である私でも協力できる活動を探していきたく思います。 |
| 箱崎さんの夢や考え方が素てきだと思いました。作文コンクールのスピーチをきいて、すごいと思ったし、尊敬しました。私も今英語がんばってるので、もっとがんばりたいです！ |
| 夢を持つために自信と支えが必要なのは日本人も外国人も同じなんだという事が分かってよかった。すべき事が同じなら「自分の子に手をかけてよ！」じゃなく、一緒に同じ問題を解決していこうよというスタンスに変わると思った。 |
| 小さな夢、目標を持って生活するということ。 |
| 「まなびや@KYUBAN」の話を聞いたとき、参加してみようと思った。 |
| 今後、色々な世界を見たいと感じた。 |
| 外国人(日系)の方々を引きこもりの方やネグレクトの方も同じようなことを考えているということが参考になった。 |
| 日本の社会が抱えているネグレクトや引きこもり問題と日系ブラジル人達の抱えている問題を考えていきたく思いました。 |
| 外国人への思いやりをさらに持つようにしたい |
| 日本人とか外国人とか関係なく、「自分がなぜ存在しているのか」を思えることが大切だとわかった。もっと、外国人の方と交流していきたく思った。 |
| 日本人であっても社会のシステムを知ることで今の自分は何ができて、何ができないのかや、周りから何を求められているかを学ぶことができると思います。そして、自分は、このシステムの中の一員であることを改めて感じる事ができると思いました。だから、私は、社会のシステムをもっと学んでいきたく思いました。 |
| 小さな夢をこつこつ叶えていくことでじぶんの存在価値を見出し、社会での自分を照明できることは、誰にでも必要なことだと思いました。 |
| 「外国人」「日本人」という分けた考えではなく、日本に住む人々として捉え、今後の生活につなげたい。 |
| 行政も関わって様々な事業があり、特に小学校就学前の子供へのプレスクールを行い、より早く学校へなれるための取り組みがあることを知れた。 |
| この社会には色々な人がいることを理解できた。 |
| 日本の社会について、私自身ももっと日本の社会を知るべきだということを感じました。日本の社会の中で一緒に生活していくために、何が必要なのか、ということを考えていきたく思います。 |
| 大学のゼミで外国人支援について学んでいます。ソーシャルワークを目指しているなかで、福祉の対象は日本人だけではないので、外国についてのことを知りつつ相談支援をされるようになりたい。 |
| とても勉強になりました。多文化共生について学び始めたところです。 |
| 外国人の方々の支援は子どもに力を入れる必要があることがわかったので、子どもの支援について更に知りたいと感じた |

| |
|--|
| 子どもたちが価値をみつけられるように大人がまず認めてあげていくことが大切ということを知ったので今後、差別的なことはしないでいこうと思いました。 |
| 多文化ソーシャルワーカーについてよく知りたい。それと社会福祉士等の専門職との関連など。 |
| 村上アリセさんのお話が日本で暮らす外国人の生の声として大変参考になりました。 |
| 夢を持つためにはその人のアイデンティティが確立されていないといけない。そのために何をすべきか、具体的な方法をいくつか提示いただけたこと。 |
| 自分が自分であることを表明できるということが、(外国籍であるかどうかでなく)大切だというメッセージ。基本的なことだが、多文化共生に執着しすぎると他のテーマで見えなくなってしまう |
| 杉山さんのお話や、大学生、NPO職員、外国人の親や政府側の色々な視点や多文化共生に関する課題や「道の小さな灯り」を照らしてくれる話などをしてくれて大変参考になった。特に村上さんの「日本人が当たり前だと思うことが外国人にとっては全然知らない」や箱崎さんの自分のはげましになる「小さな目的設定」のお話がよかった。 |
| 村上さんのお話 |
| 外国人も日本人も生きやすい社会は「私は私だ」と言えること、という話 |
| 日本人、外国人関係なく、自分の居場所を見つけたり、他の人から認められる場が必要だと思いました。又、学習に対しての手厚いサポートがとても重要であることを再確認しました。 |
| 「自分が自分であることに自信を持つ」ことの重要さは、教育の現場でも日々感じていることです。外国人であれ日本人であれ、自分の可能性に自信を持てる教育の必要性を改めて感じました。ありがとうございました。 |
| 子どもたちの作文や座談会でのカリンさんの話から、自分のいる環境の中で自分の居場所や生き方をみつけようとたくましく生きる子ども・若い人に触れられて良かったです。 |
| 講演で「自分が自分らしく生きられることが大切」というお話をしていただいたこと。当たり前なんだけれども忘れがちで、人生を生きる上での根本的なものを改めて考えることができました。 |
| 関わっている子どもにどのように自分の存在価値を見出してもらえるか考えるヒントが得られたような気がします。 |
| 調べて努力すると未来が見えるんだな—とみなさんの話を聞いて感心しました。 |
| 子どもたちの夢を達成させるためには、支援の体制がとても大切であるということ。杉山先生のお話から、国籍のアイデンティティが思うようにもてない方々の話をきいて、国籍を問わず夢を追うために何が必要か、自分自身のこともふくめて改めて考える機会となりました。 |
| 日系人、ブラジル人の現状について |
| 外国人の問題は日本社会の問題と繋がっているということ。解決の方法にも多様なオプションがあるのではないか。 |
| 日本語ができるとこないいいことがある、ここがいい点だというメリットを日々の仕事の中で子供や保護者に伝えていきたいと思う。 |
| 私の日本語の能力不足もあって、杉山春氏の伝えたかったメッセージが最初はよくわかりませんでしたが、「日本語が出来ないからではない」とおっしゃっていて少し分かるようなきがしました。その点に関しては私も同感です。 |
| 外国人も日本人の子どもも「きっかけ」が大事で、それを作るのは大人の責任である。外国人の子どもと留学生との制度の不平等 |
| 小さな夢が必要だということ、またその夢に近づく為のきっかけ作りを大人があきらめさせてしまうような状況をつくっては絶対にいけないということが印象的でした |
| 三重県も少しでも愛知県の取り組みに追いつけるよう、頑張りたいと思いました。特に基金やプレスクールに関心があります。 |
| 具体例がたくさんきけて良かったです。カリンさんの経験談やアリセさんの悩み、川口さんの教室作りの苦労など。 |
| 愛知県の学校教育における外国人を含めたさまざまな生徒に対する支援・教育のあり方 |
| 座談会を通じて、日本在住の外国人の方がひとりでも多く自立し、安心して暮らせるように小さいながらも尽力したい。 |

| |
|---|
| 現代の社会状況に応じたルール作りが必要というメッセージ。保険、年金の問題もしかりだと思う。 |
| 後半。パネルディスカッションが良かった。期待していなかった分、新鮮に感じた |
| 箱崎カリンさんおめでとうございます。これからもがんばって下さいね!!! 高3のむすめがいる母親として、とてもいい話を聞かせてもらいました。夢に向けてがんばって!!! |
| 多文化共生に携わる方々の現場の話は参考になりました。 |
| 他のNPO団体と多くの情報交換をして連けいしていく事が大切だと思いました。 |
| 国籍に対する思い |
| 許さんの作文の中に「私は日本で生きていく」の一言には「ガツン！」と頭をなぐられた思いです。小さな子どもがあれほどの決意ができるなんてすごいと思います。 |
| 村上さん自身の体験を聞き、外国籍に対する日本社会のルールの困難さを痛感しました。私自身の子供達もいずれは国籍を選択しなければならないので、その時までには国籍を越えた(国籍にこだわらない)個として的人格形成の手伝いをしたいと思います。 |
| 様々な生き方を紹介していただき、世の中には多様な生き様があること、一人の人がいくつもの面をもつこと。外国人が日本社会で生活することの生きにくさを少しでもやわらげられたらと思いました。 |
| 自尊心を大切に。小さな目標を少しずつつなげて大きなものにしていく。 |
| 特に村上アリセさんのお話。私たちが活動していることと同様のこともあり、改めて、方向性がまちがいないことを感じました。 |
| 九番のこと |
| 日本人の子どもも外国人の子どもも夢を持たせることが将来には大切なことであること。夢を持たせてあげられるように子ども達をサポートしていきたいと思いました。 |
| 杉山氏の「自分が存在している理由」「自分が自分である事を言える事」を知ることは大切だというメッセージは、私自身も日頃感ずることで、子どもにかかわる授業や学習支援で生かしていきたいと思いました。村上アリセさんの「昔からそうだから…」ではなく、いろいろな人種・文化が共生しているこの現代社会にあったルール作りをしていく必要がある。このメッセージは大切だと思いました。 |
| 村上アリセさんの国籍の話は大変驚きました。具体的な話を聞かせて頂いてよかったです。 |
| 地域の大人(コミュニティ)が元気だと、まわりの人たちをまき込んで不安や不満を解消でき、その社会は比較的健全に育っていくように思いました。 |
| 愛知県に住んでいる外国人の現状等が少しわかり今後日本語ボランティアを目指す上で参考になりました。 |
| 今、日本人の間でも孤独が広がっているとのこと。「無縁社会」それは日本社会の縮図の様な話でした。基本に流れるものは「人権」のあり方なのか、気付かない内に他人を傷つけているかもしれない。よりやさしく生きて行こう。 |
| 小学生、中学生の優秀作文は感動的でありました |
| 研究分野が在日日系人なので著書も読んでいて知っていることばかりだった。ネグレクトやアイデンティティの問題についての話が興味深かった。 |
| 外国人問題と日本人の問題は共通している。外国人問題を解決することは日本の問題を解決するという講師の言葉や小さな目標を立てることの大切さ。 |
| 在住外国人は意外と少ないんですね。スペイン人、ハンガリー人と接触していて何かと参考になることが欲しかったが国が違ってかけ離れていた |
| 日本の学校に通学する外国人児童、保護者との接し方 |
| 若い人の意見が聞けて参考になった。外国人が日本国籍に帰化される時に、日本に何を還元できるのか、国際人としてグローバルに考えなくてはいけないのか。仕事の減った事により生活保護等手当を受けている人への今後の対応を考えないと日本人の負担増が心配。外国人の良い面、悪い面をきちんと知って新しいルールへの変更を公的機関行政が考えてほしい |

「相違」「多様性」といった視野を広げてくれる考え方と、ひきこもりやネグレクトといった要因や現象がどこでつなげていくべきか、よくわかった。ただし、「問題の本質はいつも隠されたままで」というのが素直な感想

利用者の立場に立って(外国人の立場に立って)という意識でも日本人と違った感性もあるため、外国人が外国人の視点でみたものを文章化していきたいと思っています

日本語教育の必要性(日本での生活のためには必要、日本のルールについても支援する必要がある)

共生上の問題点がわかった

小さな夢の積み重ねが大きな夢の実現につながる

情報の重要さ～夢を持って生きていけるように、色々な情報を伝えて行く必要性を感じました。(進学情報、社会のルール、日本の文化、日本人の考え方等)更に、現在の社会に合うルールに変わるような働きかけをしていきたいと思いました。

杉山春さんのお話は、具体的な人物を提示されながら、「私が私であることを社会に発信できること」の大切さをくり返し言われていて参考になった。マイノリティの人たちのカミングアウトよりもう少し社会のつながりを意識することかなと思った

外国籍の子どもへの指導の仕方。得意のものを探し、生かしてあげるアドバイス等々

生活に必要な正しいやさしい日本語の提供。子どもの思いや願いを受けとめる努力が必要

箱崎さんに続く児童らに、気を付けたり、よい情報を提供できたら。